



パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.122 2022年10月15日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

TEL 0554-22-3611

牛乳パックリサイクル講習会を実施

コロナの影響で、2年もの間開催を見送っていましたが牛乳パックリサイクル講習会を、去る8月5日に相模原市のエコパークさがみはらにて実施いたしました。

参加人数の制限により20名ほどの参加者でしたが、牛乳を飲んで手開き体験や好評の手すきはがきづくりも行うことができました。

クイズや紙漉きに楽しそうな表情で参加していた子どもさんの姿を見て、やはり対面での啓発活動は意義あるものと改めて実感いたしました。

ご協力いただいた相模原資源循環推進課、パック連サポーターの方々、製品提供やお手伝いくださったコアレックス信栄（株）の営業の方、また講習会開催に協賛していただいている、パックマーク促進協に感謝申し上げます。

今講習会は、相模原市の4Rキッズスクール「夏休み牛乳パックリサイクル体験教室」の一環として、相模原市資源循環推進課から5月に依頼を受け、実施日や会場等について打ち合わせをしながら準備を進めてきました。

2019年まで毎年行っていた相模原市での講習会会場は、清掃工場に隣接したリサイクルスクエア橋本台という施設でした。

牛乳パックリサイクル体験以外にごみ収集車両の乗車体験も入れたプログラムになっていましたが、今回は相模原市環境情報センター；愛称「エコパークさがみはら」という施設での開催となり、牛乳パックリサイクルに特化した内容となりました。

相模原市では、資源循環推進課が属す環境経済局内に、今年度から「ゼロカーボン推進課」を新たに立ち上げ、「エコパークさがみはら」はゼロカーボン推進課の管理下の施設となることから、会場費用については、局内の2課で調整の上免除していただきました。

また会場については参加者が密にならないよう、学習室、活動室の2室の利用予定でしたが、コロナ感染者数の増加のため活動室にコロナ対応のコールセンターを設置することとなり、学習室1室での実施となりました。

それでも会場が以前より広く座席の間隔を十分確保できたことと政府のコロナ対策の緩和もあって、恒例の牛乳を飲んで手開き体験や、手すきはがき作り体験を実施することになりました。

私たちスタッフは全員フェイスガードをつけ、アルコール消毒



スプレーを各所に設置するなど、念入りにコロナ対策を取った上で子どもたちへの対面指導にあたりました。

当日は相模原市資源循環課より2名、紙漉き指導等にあたるサポーターさん7名、製品展示のご協力で富士市から駆け付けてくださったコアレックス信栄の営業の方2名、パック連・平井の計12名体制でのぞみました。

子どもさん達以外に保護者の方やエコパーク相模原の職員方にも紙漉きを体験していただき、牛乳パックのパルプだけで、しっかりとしたはがきができることに驚いていました。何より、講習会のプログラムに楽しそうに参加していた子どもさん達の表情が印象的でした。



紙漉き指導にあたるサポーターの皆さん。
久しぶりの講習会であっても、準備や、密にならないための会場設営など、場を踏んでいて動きにそつがありません。

恒例の資源ジャー・ペーパーピンクによる修了証授与の様子



相模原市長名でのお礼状が届きました

諸君 残暑の候、平井様におかれましては、ますます御活躍の由、お喜び申し上げます。

さて、このたびの4Rキッズスクール「夏休み牛乳パックリサイクル体験教室」につきましては、御多用の折にもかかわらず、貴会より講師を派遣していただき、誠にありがとうございました。

おかげをもちまして、牛乳パックのリサイクルのみならず、紙資源の大切さ、循環型社会の形成の必要性についても、幅広い世代の方々に楽しみながら学んでいただき、本講座の目的を十分に達することができました。

今後とも、本市のごみの減量化・資源化に関する取組につきまして、よろしく御指導賜りますよう、お願い申し上げます。

本来ならば、お伺いしてお礼申し上げるところでございますが、略儀ながら書状をもちまして、お礼の御挨拶といたします。

謹言

令和4年8月15日

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会
代表 平井 成子 様

相模原市長 本村 賢太郎



コロナ禍のこの3年間でリモート学習体制が進みましたが、直接牛乳パックリサイクルの大切さを伝え、子どもさん達の反応も直に確認できる対面での講習会は、有意義な啓発活動だと改めて感じました。

小学校を対象とした出前授業もしっかりですが、この活動はリサイクルの意義を伝え、回収量を高める目的だけではなく、日ごろ「洗って開いて乾かして」という手間をかけて牛乳パックリサイクルにご協力いただいている自治体、学校、子どもさん、ご家庭への感謝の気持ちを込めて実施してきました。

参加者が少人数であっても、訪問先が遠路であっても決して無意味な活動ではないと自負しています。

むしろ回収率を上げる義務のある乳業事業者、紙パック製造メーカー及び統括する事業団体こそ、感謝の気持ちを持つことを基本に、こうした活動をしっかり行っていただきたいと思います。

パックマーク30周年バージョンのオリジナルトイレットペーパーを製作



今年誕生して 30 年目を迎える牛乳パック再利用マーク。
全国パック連と牛乳パック再利用マーク普及促進協議会
(略；パックマーク促進協) の連名で、30 周年バージョン
のオリジナルトイレットペーパーを製作しました。

8 月 5 日に行った相模原市での講習会にて初お披露目とな
り、今後キャンペーンなどの啓発活動を通じて配布していき
ます。会員さんへも個人、団体企業を問わずお送りできます
ので全国パック連事務局までお申し込みください。



紙の博物館にてパックマークを紹介

去る 7 月 16 日から 8 月 28 日の間、王子の紙の博物館に
おいて、「紙の自由研究」というテーマで、牛乳パックにつ
いても繊維の様子、再生品、紙漉き方法など、自由研究に役
立つ内容を紹介していました。

古紙の再生品のコーナーでは、牛乳パック再利用マークを
掲載した説明パネルや、パックマーク入り製品も展示されて
いました。



牛乳パックリサイクルほんとのなしを制作中

今年度のパック連及びパックマーク促進協との
啓発事業として、「牛乳パックリサイクルほんとの
なし」を現在制作中です。(B5 版 8P)

パック連では以前、紙パックリサイクルほん
とのなしという冊子をプロデュースいたしま
したが、今回は牛乳パック再利用運動の始まり
の経緯にも触れ、大幅に改訂いたしました。

パックマーク紹介パンフレット、学乳パック
リサイクルパンフレットと共に、会員の皆様、
パックマーク使用メーカー様にもご活用いた
だきますようお願いいたします。



会員さん情報

NPO 法人ゆいまある

牛乳パックの小物づくりを通して、老人福祉施設やイベントなどでリサイクル啓発活動がされている NPO 法人ゆいまあるさんとは、もう 30 年近くのお付き合いとなります。長年にわたり代々木公園や日比谷公園で行われていた、森林の市やエコライフフェアでは、牛乳パックに和紙を貼っていろいろな小物づくりを指導していただきました。

コロナ禍で、老人福祉施設のデイサービスでの教室やイベントが中止となって、活動が制限されていましたが、9月29日に豊島区消費者生活展において、久々に作品展示をすることになったと代表の中澤巳代子さんからご案内が届きました。

今回は展示のみでしたが、以前のような対面で指導ができる日が来ることを待ち望んでおられました。

コアレックス信栄株式会社

コアレックス信栄(株)では、製品の売上げの一部をウクライナ支援へ寄附する取り組みをしています。

その目印として、「共に平和を」という文言の入ったシール（○印内）を製品に貼って、呼びかけています。

また、右写真の製品は障がい者福祉事業所が地元企業や団体から回収した古紙を再生した 4 色パステルカラーのトイレットペーパーです。

色違いに袋詰めするため、福祉事業所のメンバーさんが手作業で行っていて、売上げがメンバーさんの工賃になっています。



(○印内文言参照)

株式会社山田洋治商店

牛乳パックの回収量全国一を誇る (株) 山田洋治商店ですが、牛乳パック再利用運動開始当時からかわっておられた山本信之専務取締役が、今年度社長に就任いたしました。

株式会社田中商店

びん商を営みながら牛乳パックがつなぐヒューマンネットワークに共感され、牛乳パックの回収のみならず第 17 回全国大会（水俣市開催）の事務局長まで務めてくださった (株) 田中商店の田中利和専務取締役が、今年度社長に就任いたしました。

◎パック連通信は、ホームページにも掲載しています。画像などカラーで見ることができますのでホームページの方もご覧ください。

◎牛乳パックリサイクル・牛乳パック再利用マークについてのお問い合わせは

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 / 牛乳パック再利用マーク普及促進協議会

TEL.0554-22-3611

FAX.0554-56-9216

E-mail info@packren.org

ホームページ <http://www.packren.org>

〒401-0012 山梨県大月市御太刀 1-2-10